兵庫教育大学
大学院同窓会
会報
第46号
令和4年（2022年）3月発行
兵庫教育大学大学院
同窓会　広報部

2期目就任にあたって

同窓会長　新居　寛

令和3年8月の全国大会、水野氏をはじめ北海道地区の実行委員の皆様本当にお世話になりました。ハイフレックス会議というはじめての試みでしたが皆様のおかげで無事開催することができました。また、コロナ対策が続く間はこのような形態で総会等を開催することとなりますが、ご理解のほどをよろしくお願いします。また令和4年度愛知大会開催に向けて準備していただいております実行委員の皆様にはご労苦をおかけしますがよろしくお願いします。

さて令和3年札幌大会総会において役員改選があり会長に再任されました。会長として一期目は、コロナの影響をまともに受け、令和2年の総会を中止しましたが、令和3年度は会場とリモート参加という形態で、開催することができました。関係された皆様のご理解ご協力に感謝申し上げます。

同窓会活動を推進するにあたり、特に以下の四点に重点を置くつもりです。

まず、第一に、変化の激しい時代に柔軟に対応できる学び続ける同窓会、同窓生であるということです。第二に、大学に貢献できる同窓会であるために、毎年、全国大会を開催し、兵庫教育大学の教育活動、教育推進を支援するとともに、大学の認知度をさらに高めることです。第三に、同窓生の中から立派な研究実践されている方を表彰し、活用することです。そして、四点目は、会則や各部の動き、ブロック体制の見直しなどを含めて検討し、新たな指針と具体策を示して速やかに実行していくことで同窓会をさらに活性化していくことです。しかし、これらの目標の達成は役員だけではできません。皆様のお力添えが不可欠です。同窓生の皆様には、これまで以上に同窓会の活動に関心を持っていただき、主体的かつ積極的に参画していただきますよう心からお願い申し上げます。

ご挨拶

学長　加治佐　哲也

大学院同窓会の皆様には、平素より大学運営および研究活動に多大なご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

また、コロナ禍における困窮学生支援のための基金についても多額のご寄付をいただきありがとうございました。おかげさまで、学生たちは元気に大学生活を送ることができています。

さて、本学は、教員養成フラッグシップ大学を目指して、Society5・0社会に対応できる教員養成プログラムの開発を強力に進めております。文科省に要望しておりました「先端教職課程カリキュラム開発センター」の経費も認められましたので、教育研究をさらに飛躍的に推し進めていきます。

そして、これらの取り組みは、コロナ禍で大きく変化した教育環境において、待ったなしの課題となっています。そういった意味で、本学の取り組みは、これからの日本の教育の未来を決めるものであると確信しています。

大学の授業は、オンライン、ハイブリッド型、ハイフレックス型、などの新しいスタイルがノーマルになりました。数理・データサイエンス・AIの教育も来年度から学部の授業で始まります。STEAM教育につきましても、大学と附属学校がインテル社のSTEAM Lab実証研究校に採択されましたので、弾みがつくことでしょう。

私が委員を務めております中央教育審議会では昨年、教員免許更新制度の発展的解消を答申し、来年度中に実現される見通しです。新たな研修制度とあわせて教員を取り巻く環境も大きく変化しています。

本学においても、令和5年度には、神戸キャンパスをハーバーランドから新長田に移転する予定です。本学にとってもここ数年は大きな変革期となります。

これらの挑戦を成功させるには、日本の教育の根幹を担い現場の教育を支えておられる大学院同窓会の皆様の豊富な知識と経験、そして理想の教育を実現しようとする強い意志と実践力を結集いただくことが必要不可欠です。どうか今後も大学へのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

支部活動の紹介(2)

島根県支部

まずは第一歩を踏み出すことから

島根県支部　毛利直巳

◇はじめに

本県には五つのブロック（松江　出雲　浜田　益田　隠岐）があります。平成三年同十五年と過去二度に渡り、全国大会を開催しましたが、その後は衰退の一途をたどり、特にここ数年は、以前のような定期的な派遣がないうえに、会員の高齢化や後継者不足等の問題から、ブロック活動はおろか、県全体としての活動が停滞しています。

このような状況下で、私が支部代表に就任した令和元年度から、できるところから手を付けたいと考え、松江ブロックの研修会を開催しています。従いまして、これからご紹介する活動については、本県全体としての活動報告ではなく、松江ブロックとしての報告に終始することをまず、ご理解いただきたいと思います。

◇活動の実際

①開催時期について

令和元年度九月から基本的には、二か月に一回の割で開催しています。土曜日の午前十時から十二時までの二時間を基本としています。

②参加者について

現在六名です。内訳は現職二名退職四名です。

③研修会場について

島根県民会館の部屋を毎回予約し、使用しています。

④研修内容について

○実施方法について

提案発表を毎回一時間程度行い、その後、質疑応答をしながら、内容の共有化に努めています。

○提案発表について

岡田昭彦先生（第二十期教育方法コース修了）に、十回に渡り、次のテーマで提案発表をしていただきました。

『「深い学びを実現する授業づくり」～資質・能力を育む評価の在り方～』

提案発表の内容は、中学校社会科の授業実践をもとにしたものです。参加者の専攻分野は個々に違うものの、それぞれの視点で協議が行われ、毎回、新しい発見があります。

現在は、新しいテーマでの研修を模索中です。

○加治佐哲也学長講演会の開催

・演題

「新しい時代の初等中等教育のあり方」

柱①「令和の日本型学校教育の構築を目指して」

柱②「Society5.0」

「小中一貫教育について」

「教科担任制について」

・期　日　令和三年八月二十二日（日）

午後三時～四時

・会　場　サンラポーむらくも

・参加者　四名（会場）

三名（リモート）

本県初となる学長講演会を行いました。加治佐哲也学長には、ご多用中のところ、コロナ禍の中、リモートにてご出演いただきました。示唆に富んだ貴重なお話を拝聴できました。

当日は、参加者も少ないことから、講演内容に関して、質問時間も十分にあり、実りの多い会になりました。

また、同窓会本部役員で副会長・山口県支部長の渡邉哲郎様にもリモートで、ご参加いただきました。有難うございました。

お陰様で、今後、西中国ブロックとしての連携推進に向けて、一石を投じる会になりました。

◇終わりに

冒頭でも触れたとおり、現在、本県が置かれている状況は厳しいものがあります。しかし、私はどんな状況下にあろうとも、とにかく、まず第一歩を踏み出すことこそが肝要と考え、活動を行ってきました。諦めたらそこで終わりです。

松江ブロックの活動は、まだ緒に就いたばかりですが、少しでもこの活動が他のブロック活動の一助となり、結果、県全体としての活動へと発展できるよう、今後とも、まず、出来るところから着手していきたいと考えています。

同窓会本部を始め、すべての関係者の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

◇同窓会員の活動トピックス◇

「日本近未来学会」創設

同窓会理事の梶原氏（山梨）、勝俣氏（静岡）を中心に、「日本近未来学会」が創設されました。詳しくは、同窓会HPをご覧ください。

第40回兵庫教育大学大学院同窓会 総会・全国研究大会【北海道大会】

令和3年7月31日（土） ホテルライフォート札幌において、令和3年度大学院同窓会総会・第40回全国研究大会【北海道大会】を開催しました。

コロナ禍での開催については議論を重ねてきましたが、本来は昨年度の実施予定のところを1年間延期した経緯があることや、オンライン開催のノウハウの蓄積などを考えて、今年度は会場参加とオンライン参加を選択できるハイフレックス方式で開催することになりました。とはいえ、会場参加をされた場合のリスクを考え、北海道の方以外は原則オンライン参加という形で開催しました。

オンラインについては同窓会として初めての取り組みということもあり、未熟な面が多々ありましたが、大会は、北海道支部の団結力と緻密な準備・運営により、驚くほどスムーズに開催ができました。この場をお借りしまして、あらためて2年間にわたり、ご尽力をいただいた大会実行委員長 水野和男さん、大会事務局長 一町田昌哉さんはじめ、北海道支部のみなさまに深くお礼申し上げます。

大会日程 7月31日（土）

12:10～13:00	受付
13:00～13:50	大学院同窓会総会
13:50～14:20	北海道大会開会行事
14:20～14:50	教育実践研究活動等に係る表彰
15:00～15:30	学長挨拶及び講和 加治佐哲也学長
15:30～16:20	教育実践発表 傳法谷肇氏、森万喜子氏
16:20～17:50	記念講演 講師 公益財団法人 北海道文化財団理事長 磯田憲一氏 「“居場所”を届けて～君の椅子プロジェクトの16年～」
16:20～18:00	北海道大会閉会行事

会場参加（20名） **オンライン参加**（94名）

ご来賓（オンライン参加）

学 長 加治佐哲也様 理事・副学長 須田康之様
理事・副学長 吉水裕也様 副学長・事務局長 松本吉正様
副学長 福井茂樹様 教育研究支援部長 尾白泰次様

実行委員長挨拶
ともに学び続ける教育への情熱を

実行委員長 水野 和男

「皆さま、ようこそ北海道へ。心より歓迎いたします。」と対面でメッセージを伝えたかった北海道大会ですが、1年間の延期を経て、この度ハイフレックスで無事開催することができました。同窓会及び大学関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。

北海道は今、ラベンダーも咲き誇り1年で一番良い季節を迎えています。全国の同窓生の皆様にリアルに感じていただけないのは誠に残念ではありますが、本日の研究大会で新たな学びを得るとともに、同窓生同士のネットワークがさらに広がっていくことを心から願っています。

私たちの母校である兵庫教育大学は新構想の教育大学として昭和53年に創立され、40有余年の歴史を刻んできました。これまでの大学院修了生は1万人を既に超え、全国各地の教育機関や研究機関などで、トップリーダーあるいは実践的リーダーとして活躍しています。コロナ禍における学びの保障など教育環境が大きな課題に直面しているなか、私たち同窓生の役割は益々高まっています。

同窓生が全国各地で活躍していることの証左となる、大学から遠隔の地、北海道で全国大会を開催することで、今後の教育と私たちの果たすべき役割について考え、ともに学び続ける教育への情熱を一層高めたいと思います。

大会事務局長より

一町田 昌也

第40回兵庫教育大学大学院同窓会総会、全国研究大会北海道大会の開催当日である7月31日は、札幌市の気温が35度となりました。涼しい夏の北海道大会を期待していたものの、前日も含めると大変暑かったとの印象がある大会となりました。

さて、同窓生のみなさまには、北海道大会へ参加いただき、誠にありがとうございました。

今次の大会は、新型コロナウィルス感染症の影響もあり、現地での対面参加とWebを活用した全国各地からのオンライン参加という初となるハイフレックスの開催となりました。今回の大会が今後の全国研究大会の実施の参考となれば幸いです。

みなさまのご協力により北海道大会は無事に終えることができました。参加いただきました全国の同窓生、大学院同窓会役員、そして、大会運営のために北海道の各地から札幌市に集まった北海道支部の仲間に感謝申し上げます。ありがとうございました。

学長講和
『これからの日本教育と兵庫教育大学』
学長　加治佐　哲也　氏

加治佐学長様からは、「これからの日本の教育と兵庫教育大学」と題してお話をいただきました。中教審の委員として、踏み込んだ内容までお話しいただき、とても有意義で貴重な講話となりました。

主な内容は次の通りです。

○『令和の日本型学校教育』
・個別最適な学びと協働的な学び
○新しい教師像と教職員集団
○教員免許更新制度の発展的解消
・現在の状況および今後の予定
・新たな研修プログラムについて
○今後の中教審での検討事項
○兵庫教育大学の取り組み
・教員養成フラッグシップ大学の申請
・神戸ハーバーランドキャンパスの移転
新長田の兵庫県の新施設へ移転
（令和5年10予定）

記念講演
『"居場所"を届けて』
～君の椅子プロジェクトの16年～
講師　公益財団法人
北海道文化財団理事長
磯田　憲一　氏

磯田さんは、生まれてきた子どもに、生まれてきたことに対する親や家族、地域みんなの喜びや愛情をこめて『君の椅子』を贈る活動を16年間続けてこられました。子どもの成長にともなって椅子としての機能を失っても、生涯人生の"居場所"であり続ける「君の椅子」。新しいものにしか価値がないという現代の文化を見直し、古くなることで価値を増すという『君の椅子』プロジェクトに、大きな感銘を受けました。

この椅子を通して生まれた様々な人々との交流のエピソードはどれも心温まるものばかりでした。特に、震災時に生まれた子どもたちに椅子を贈るという取り組みは、磯田さんの他者の痛みを感じる繊細な感性と人に対する深い思いやりに満ちていました。子どもたちの生まれた日が震災と重なったことで、本来祝福されるべき日が、悲しみの日となってしまった子どもや親たちに喜びと勇気を与える「君の椅子」の力を見ていると、どんなに豊かな時代になっても、人は生きるために「希望や喜び」が必要で、それを生み出してくれる磯田さんのような人の存在がどれだけ大切かをあらためて思いました。磯田さんの映像も交えながらのゆったりとした語り口もあって、引き込まれるように時間が過ぎました。

毎年椅子のデザインは異なり、過去のものは決して手に入らない。それだけに、椅子は自分だけの大切な"居場所"であり続けることにも納得するとともに、そのような形で「君の椅子プロジェクト」を続けてこられた磯田さんの深い洞察力に感動しました。また、実際に椅子を持たせていただきましたが、小さくてもずっしりとした重みがあり、とても頑丈な作りに驚きました。まさに「一生もの」だと思いました。磯田さんの人に対する温かい思いの詰まった感動的な講演でした。

北海道大会の感想

北海道大会参加者からたくさんの感想が寄せられています。多くの方々から大会成功の賞賛と慰労の言葉が多く述べられていました。コロナ禍で二年越しの大会、しかもハイフレックス開催という初めての試みで、北海道支部のご苦労も多かったことと思います。水野和男実行委員長、一町田昌哉大会事務局長はじめ多くの方々に感謝とご慰労申し上げます。

今後もハイフレックスでの開催ということも考えられます。音声や映像の送り方。時間設定など課題も多くありましたが、励ましの意見もたくさんいただきました。皆さんと共有できれば幸いです。

○対面での活動とともに、それをオンラインで全国に同時発信することは同窓会の活性化に大きく貢献すると思う。これからの大会のモデルを示していただいた。
○とってもアットホームな素晴らしい会だった。実施して大正解。内容も随所に北海道らしさが出ていた。
○リモート形式での開催は、とても提案性がある。（アフターコロナの時代でも、遠方からの参加が可能になる。）
○奨励賞を受け取る際に、受賞者からテーマを含め、何を研究し何を明らかとしたのかを簡単に紹介する場面があっても良いのかなと思った。

教育実践発表 Ⅰ
『指導主事としての嬉望』

帯広市教育委員会
学校教育指導課統括指導主事
傳法谷 肇 氏
（34期 学校経営コース）

今、学校では社会構造の変化や産業改革、家庭環境の変化に対応するため、地域ぐるみで子どもを育て、教育するため様々な取り組みが行われている。その中の一つに、令和2年度から、市内全小・中学校で、「おびひろ市民学」通称「おび学」がスタートした。

「知る」段階、「関わる」段階、「創る」段階と3つのステップで構成された本プログラムは、本市が同時に進めている「小中一貫教育」の段階と一致したものとなっている。また、本プログラムの構成は、SDGsや手話講座、防災講座などをはじめとした、17の必須単元と17の選択単元の合計34の講座からなっており、ふるさと帯広への誇りや愛着、地域づくりに関わる子どもを9年間の「おび学」を通して、育てることを目的としている。

「おび学」のコンセプトの一つは、様々な大人との関わりである。先生だけではなく、地域が一体となった学びの創造を目指していくため、民間企業や市役所、公共の機関など、多くの関係機関が関わっている。

先の見通せない、変化の激しい未来を生きていく子どもたちの「生きる力」を育てるために、学校と家庭、そして地域の連携は欠かせない。帯広市が進める「おび学」は、三者の接着剤とも言える取組と考えている。9年間のプログラムを終えた子どもたちが「帯広のことが好きだ」「これからの地域づくりに参画したい」そんな思いを持てるよう学校・家庭・地域、総ぐるみで取り組んでいきたいと考えている。

教育実践発表 Ⅱ
『コロナ禍だからこそ。学校改善の事例研究』

小樽市立朝里中学校長
森 万喜子 氏
（39期 教育政策リーダーコース）

令和2年2月末の北海道内の学校休校に始まり、その後の全国一斉休校と、コロナ禍により学校教育は大きなダメージを受けた。臨時休校中、休校明けから現在までの学校の出来事を振り返り、何が起きたか、どう判断し動いていったかについて、公立中学校のリアルを報告させていただいた。

休校が決まった後、日本中の家庭に届けられた宿題プリントの束、学校給食のない長い休校期間で明らかになった学校の福祉的役割、「コロナ禍だからできない」という言葉と共に思考も停止してしまう学校が多いなか、教育委員会からの指示待ちをやめ、近隣の学校と揃えようとする様子見を止め、できることを何でもやろうという共通認識をもった。休校中も双方向で学びをサポートするメールアドレスの設定、Gsuite for education を用いたオンライン職員会議、オンライン授業がいち早く実現できた。これは校長のリーダーシップではなく、権限を委譲し、シェアドリーダーシップを実現できたことも要因のひとつである。

学校再開後も、学校行事、カリキュラム、感染症対策、地域との連携、コロナ禍における家庭の経済負担軽減策など、様々な職員がそれぞれの得意分野を生かして参画した。長い休校を経たにもかかわらず生徒の学習意欲は下がらず、学力向上や探究的な学習が進んだという成果があった。コロナ禍は未だ収まる気配がないが、本質を忘れず進みたい。

教育実践研究表彰式
令和2年度・3年度受賞者

令和2年度は全国大会が開催できませんでしたので、この大会で令和2・3年度の受賞者が表彰されました。

令和2年度嬉野賞の山谷敬三郎さんは北翔大学学長で、教授・学習課程におけるコーチングモデルの統合に関する研究をすすめられ、その普及と実践に尽力されました。奨励賞の橋本美彦さんは中部大学の現代教育学部現代教育学科特任准教授で、教職教養や理科授業についての論文や著書を多数執筆されています。論文賞（奨励賞）は大島浩さんと井上万紀さんの2名です。令和3年度の受賞者については、次ページに紹介しています。

受賞者を代表して、会場参加された山谷氏に、船本副会長から表彰状と記念品をお渡ししました。（写真上）

また、オンライン参加の方々には、受賞者お一人お一人にオンラインで贈呈しました。（写真下）

令和３年度　教育実践研究活動等に係る表彰受賞者

奨励賞（論文賞）

氏　名	論文のテーマ	専攻・コース・期
富坂　耕次 （静岡県）	中学生の幾何学的思考水準の進展を促す授業 ～ van Hiele の学習水準理論に着目して～	教科・領域教育専攻・ 自然系コース（数学）・９期
井上　万紀 （兵庫県）	音楽紙芝居の実践と効果 ～子育て支援ルームと特別支援学校での教材開発～	教育実践高度化専攻・ 生徒指導実践開発コース・33 期
仲井　勝巳 （埼玉県）	小学２年生における特別の教科「道徳」の授業方略に関する研究 ～主体的・対話的で深い学びを目指した１年間の実践から～	人間発達教育専攻・ 教育コミニケションコース・33 期
白川　正樹 （東京都）	学校を主体とした第三者評価の全国的普及の推進に係る課題と展望 ～日本・イギリス・アメリカ・ニュージーランドの第三者評価の比較～	教育実践高度化専攻・ 学校経営コース・35 期
出村　雅実 （茨城県）	総合的な学びが深まるハイフレックス型授業の実践について ～大学１年生への実践記録から～	教科・領域教育専攻・ 自然系コース（理科）・29 期

令和３年度は論文賞のみでした。

◇大学より　新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済的困窮学生支援のお礼とご報告◇

同窓会の皆様からのご寄附により、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い経済的被害・損失を被った学生を対象に、本学として下記の支援を行うことができました。誠にありがとうございました。今後も学生の夢をつなぐための支援を行って参りますので、ご支援賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

授業料の一部免除

家計事情の急変により、経済的に学業を継続することが困難となった学生を対象に，授業料の免除を行いました。

令和２年度　４分の３免除：１人、半額免除：２人、３分の１免除：14人
令和３年度　４分の３免除：１人、半額免除：１人、３分の１免除：14人

タブレット購入費用の補助

経済的困窮学生を対象に、タブレット端末の購入費用の一部（３万円）補助を24名の学生に実施しました。

実習等に係るＰＣＲ検査費用の補助

教育実習等におけるＰＣＲ検査費用の補助（３万円）を２名の学生に実施しました。

100円弁当の販売

本基金を活用し、本学学生へ100円弁当の販売を行いました。
学生からは、「大変助かります、感謝しています」「いろいろな地域のご飯が食べられるので楽しい」など喜びの声が寄せられました。

《学生の声》

授業料減免の支援をして頂きありがとうございます。実家でもコロナの影響がひどく、家庭の収入も大幅に減少したことから、私一人でアルバイトをして学費を払い生計を維持している状況でした。アルバイトをして生活費は何とか乗り越えることができたのですが、大金である学費はどうしたらいいのかすごく悩んでいました。支援して頂いたおかげで、状況も少し落ち着き勉強のために毎日頑張っています。ありがとうございました。

その他、修学支援として、授業料納付時期の延期（前期授業料の納付期限を一律６月末まで延期、後期授業料の納付期限を一律11月末まで延期）、授業料の徴収猶予（前期授業料の納付期限を最長８月下旬まで延長、後期授業料の納付期限を最長２月下旬まで延長）を行いました。

令和3年度　兵庫教育大学大学院同窓会役員

会長	新居　寛（兵庫）			
副会長	専門部長代表 船本秀忠（兵庫）	ブロック長代表 渡邉哲郎（山口）	院生協代表（前期／後期） 政田晃大 / 稲垣導彦	事務局長 菅野恭介（兵庫）
専門部長	組織部長（中部・東海） 玉木　隆（岐阜）	総務部長（近畿①） 船本秀忠（兵庫）	研究部長（近畿③） 大前泰彦（和歌山）	会計部長（東中国・四国） 佐々木勇（岡山） 広報部長（西中国） 大畑和典（広島）

監事	監事長 北山鎮道（岡山）	監事 田中嘉明（兵庫）	監事 中園大三郎（大阪）	監事 毛利直巳（島根）

相談役	武　泰稔（岡山）	酒巻成欣（大阪）	吉田　廣（兵庫）	山下　裕（広島）
	大橋　博（兵庫）	川村庸子（岩手）		

ブロック	ブロック長	副ブロック長	理事		
北海道・東北	小山文明（岩手）	水野和男（北海道）	棚澤　実（北海道）	千田健一（宮城）	村石好男（宮城）
関東	清水政義（東京）	小川　孝（埼玉）	松尾鉄城（埼玉） 向井隆盛（埼玉）	野田不二夫（東京）	荒井　豊（埼玉）
中部・東海（組織部）	幸脇直久（岐阜）	梶原正史（山梨）	玉木　隆（岐阜） 勝俣得男（静岡）	森　社（岐阜） 山田達夫（静岡）	下條英子（福井）
近畿①（総務部）	尾﨑文雄（兵庫）	横内　惠（兵庫）	船本秀忠（兵庫） 北村純一（兵庫）	竺沙敏彦（京都） 岡みゆき（兵庫）	五百住満（兵庫） 菅野恭介（兵庫）
近畿②（研究部）	雲井　稔（大阪）	徳永加代（大阪）	村田卓生（大阪） 松田雅代（大阪）	井上温子（大阪） 上田幸司（大阪）	和田博之（大阪）
近畿③（研究部）	岸本秀章（奈良）	大前泰彦（和歌山）	山中賢司（奈良）	唐錦秀和（奈良）	西端幸信（和歌山）
東中国・四国（会計部）	鷲見寛幸（鳥取）	野村ゆかり（高知）	佐々木勇（岡山） 後藤陽三（愛媛）	藤原彰二（鳥取） 門屋　浩（愛媛）	小田幸伸（岡山）
西中国（広報部）	渡邉哲郎（山口）	津田和也（広島）	大畑和典（広島） 兼房高広（広島）	藤原尚幸（島根） 波佐間　清（山口）	勝田　章（島根）
九州・沖縄	草場聡宏（佐賀）	船津勇一（大分）	藤本岳大（福岡）		

支部代表	
水野和男（北海道）	横内　惠（兵庫）
西澤亨一（青森）	船本秀忠（兵庫）
山本　勉（岩手）	菅野恭介（兵庫）
渥美寿彦（宮城）	村田卓生（大阪）
髙橋正規（秋田）	井上温子（大阪）
本田　礼（山形）	和田博之（大阪）
人選中（福島）	岸本秀章（奈良）
吉田重郎（茨城）	西端幸信（和歌山）
駒田郁夫（栃木）	藤原彰二（鳥取）
青木雅夫（群馬）	小田幸伸（岡山）
小川　孝（埼玉）	田村明敏（徳島）
牧　雅英（千葉）	野島　悟（香川）
野田不二夫（東京）	清田公典（愛媛）
児玉祥一（神奈川）	野村ゆかり（高知）
碓井欣一（新潟）	毛利直巳（島根）
人選中（富山）	津田和也（広島）
林　信行（石川）	渡邉哲郎（山口）
下條英子（福井）	藤本岳大（福岡）
梶原正史（山梨）	草場聡宏（佐賀）
猪瀬洋一（長野）	平戸健吉（長崎）
松村敏幸（岐阜）	八間川隆彦（熊本）
神尾義敬（静岡）	西山和孝（大分）
鈴木　均（愛知）	後藤世志哉（宮崎）
大森雅彦（三重）	松山武史（鹿児島）
西谷　淳（滋賀）	津留一郎（沖縄）
大森直也（京都）	

※ 明朝体は兼務（再掲）

兵庫教育大学大学院同窓会 第39期 会計決算報告書

自　令和2年6月1日　～　至　令和3年5月31日

〔収入の部〕

科目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	3,450,000	3,374,120	−75,880	同窓会費225名分
繰越	1,393,788	1,393,788	0	令和元年度繰越金
売上金	0	0	0	
雑収入	0	26	26	預金利息
合計	4,843,788	4,767,934	−75,854	

〔支出の部〕

款	項	目	予算額	決算額	増減
総務部※1			505,000	0	505,000
	役員会費	渉外費	500,000	0	500,000
	事務費	需用費	5,000	0	5,000
		通信費	0	0	0
		旅費	0	0	0
		会議費	0	0	0
会計部※2			20,000	0	20,000
	事務費	需用費	5,000	0	5,000
		通信費	13,000	0	13,000
		旅費	2,000	0	2,000
		会議費	0	0	0
研究部			235,000	159,720	75,280
	印刷製本費	実践研究費	200,000	159,500	40,500
	事務費	需用費	10,000	220	9,780
		通信費	10,000	0	10,000
		旅費	10,000	0	10,000
		会議費	5,000	0	5,000
広報部※3			206,000	119,504	86,496
	会報印刷費	印刷費	200,000	119,064	80,936
	事務費	需用費	1,500	440	1,060
		通信費	2,500	0	2,500
		旅費	1,000	0	1,000
		会議費	1,000	0	1,000
組織部			405,000	184,180	220,820
	活動推進費	ブロック会議費	100,000	0	100,000
		支部活動助成金	300,000	180,000	120,000
	事務費	需用費※4	5,000	4,180	820
		通信費	0	0	0
		旅費	0	0	0
		会議費	0	0	0
事務局費			660,000	76,112	583,888
	渉外費	渉外費	10,000	2,112	7,888
	印刷費	同窓会冊子印刷費	80,000	43,970	36,030
	旅費	会議出席交通費※5	400,000	0	400,000
	事務費	需用費	120,000	30,030	89,970
		通信費	10,000	0	10,000
		旅費	0	0	0
		会議費	40,000	0	40,000
総会運営費※6			200,000	52,187	147,813
院生協活動助成費			100,000	100,000	0
寄付金(兵庫教育大学同窓会研究助成金)			1,000,000	1,000,000	0
小計			3,331,000	1,691,703	1,639,297
予備費			1,512,788	0	1,512,788
	繰越金他		1,512,788	0	1,512,788
合計			4,843,788	1,691,703	3,152,085

※1：会議がすべてリモートとなったため
※2：会計事務を事務局に移管したため
※3：会報は例年の半分の④ページで作成
※4：振込手数料
※5：リモート開催
※6：準備費

○ 収入決算合計 4,767,934円 支出決算合計 1,691,703円
差引残高 3,076,231円
差引残高は，第40期会計の収入(繰越金)に充てます。

○ 兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金は次の通りです。
定額預金 10,193,158円(10年満期 平成29年6月5日預入)

以上，報告いたします。

兵庫教育大学大学院同窓会　会　長　新居　寛
同　会計部長　佐々木　勇

監査報告

上記の第39期会計決算報告並びに運営積立金会計を
監査した結果，正確であることを認めます。

令和3年5月31日
兵庫教育大学大学院同窓会　監事長　北山　鎮道
同　監　事　田中　嘉明
同　監　事　中園大三郎
同　監　事　毛利　直巳

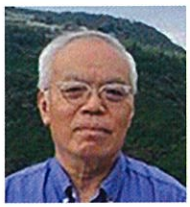
役員紹介

今年は役員改選の年でしたので、新役員（専門部長・ブロック長）の紹介をします

【専門部長】

組織部長
玉木　隆（2期）
岐阜県支部
来年度愛知大会の成功を願います。

総務部長
（副会長）
船本 秀忠（9期）
兵庫県支部
倜儻不羈　無理をせず、為すべきことをなす



研究部長
大前 泰彦（14期）
和歌山県支部
「歌以詠志」まだまだ現役です。

会計部長
佐々木 勇（5期）
岡山県支部
目標に向かって夢から現実へ

広報部長
大畑　和典（7期）
広島県支部
微力ながら会報の充実に努めます。

役職
氏名（期）
支部
抱負・メッセージ

【ブロック長】

北海道・東北ブロック長
小山 文明（17期）
岩手県支部
ブロック活動の活性化に努めます。

関東ブロック長
清水 政義（2期）
東京都支部
人との和を大切にしたい

中部・東海ブロック長
幸脇　直久（2期）
岐阜県支部
会員の活動の場を広げたい。

近畿①ブロック長
尾﨑 文雄（11期）
兵庫県支部
愛知大会は是非とも参加します。

近畿②ブロック長
雲井　稔（29期）
大阪府支部
新しいメンバーの糾合を目指して

近畿③ブロック長
岸本 秀章（18期）
奈良県支部
Last Year！頑張ります！

東中国・四国ブロック長
鷲見 寛幸（17期）
鳥取県支部
第9回ブロック研修会の開催

副会長・西中国ブロック長
渡邉 哲郎（3期）
山口県支部
対面での総会・研究会・懇親会

九州・沖縄ブロック長
草場 聡宏（12期）
佐賀県支部
今年は全国大会に参加したい！

お知らせ

令和４年度　大学院同窓会総会
全国研究大会【愛知県大会】

開催日　令和４年８月６日（土）
会　場　アイリス愛知（予定）

北海道大会と同様、会場とオンラインのハイフレックスでの開催を予定しています。ぜひご参加ください。

令和２年度　退任役員

長年にわたり同窓会役員をお務めいただき、本会の発展にご尽力下さいました次の方々が、令和２年度末をもって役員を退かれました。

本部活動はもとより、支部活動の牽引役としてその功績は非常に大きいものです。これまでのご貢献に深く感謝の意を表します。（敬称は省略しています）

■副ブロック長
芳村美佐子（大阪）
川尻　徳（福岡　支部代表）

■理事
生駒　義郎（埼玉）
石川　芳己（山口　支部代表）
松川　隆夫（沖縄　支部代表）

■支部代表
手塚　裕（千葉）（ご逝去）
山崎　誠（奈良）

《お悔やみ》

山下裕相談役は令和３年12月７日にご逝去されました。

氏は広島県支部（もみじ会）の創設をはじめ、本部役員としても多大なご尽力をいただきました。

氏の大学院同窓会に対する多大なご貢献に深く感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

広報部より　**会報に掲載するブロック・支部活動の紹介記事を募集します**

島根県支部の報告にもありますように、派遣の停止や、同窓生の高齢化に加え、コロナ禍という状況下にあって、同窓会活動が低迷しているブロック・支部が増えています。しかしその中でも、オンラインの活用をはじめ、様々な工夫によってそれを乗り越えているブロック・支部もたくさんあります。そこで、今回は広報部から依頼しましたが、今後は、ブロック・支部に記事を募集したいと思います。字数は500～600字程度です。その際、活動の様子がわかる写真を2枚～3枚添付してください。よろしくお願いいたします。原稿は下記までメールで送付ください。

送付先　**兵庫教育大学同窓会事務局**
office-dosokai@ml.hyogo-u.ac.jp